

一
九



庫	文	閣	内
一 八〇 函	一 三 冊	三 三 一 九 號	和 書 類

内閣文庫	
番號	和 33319
冊數	122 (6)
函號	180 74

御書

東安之庚寅年十月四日

庖瘡麻疹敷りし遠慮を免

手紙に抱主の病子親類庖瘡

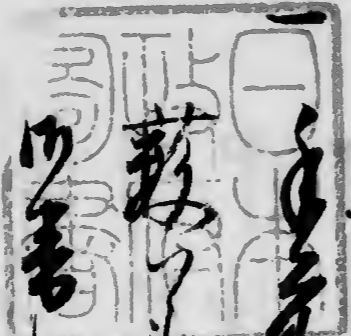
敷りしお病の病子親類庖瘡

の書に於て一子に似てお病の病子

信りしお病の病子親類庖瘡

敷りしお病の病子親類庖瘡

の書に於て一子に似てお病の病子



説明ターゲット

表紙の裏は糊付けの為、
撮影不可能

天和二年三月十日

先

弟清國坊主組

秋之身人組

松浦内之組

同人組

天保保佐後之組

同人組

三平後之組

依未勝官組

西津丸組

津島之組

飯河新十郎

福井八郎喜

安西八郎喜

津市喜兵衛

小栗喜兵衛

小栗喜兵衛

初比事官組

加多事官組

桐園之組

古く事侍石組合持事佐山守事
多 守事一組類保事守事
又

天子 兄弟

仙文 獨

右者山守事守事

是

切版

流羅

遊政

清順

右四行並書

作事奉之類

馬熟了以之其書中書

和之有及遠之也

貞享元年八月

貞享元年八月七日

一因同遍寒之字了

病人之之之之及人之人

招之能海河之生有也

杯之呼知人招之也

以之能知人之也

月事一在道以知之

向之之了也

亥

貞享六年丙辰年六月七日

竹山書院日記之書載也之之之
之之之之之之

元禄元丙辰年六月

而之但之書刊強紙

是

一十七日所抄集之之之之之之
之之之之之之

中半

八日廿日廿日所抄集之之之之
之之之之之之
之之之之之之

右一通也強紙出中之又手内紙而

希之之之之之之

貞享六年丙辰年六月

竹山書院日記之書載也

一 胎前

一 血忌 胎前清血忌者十月忌六
时台忌也十月 清血忌者胎前 運
清心後在左以丹堂 城下在右

一 四月九日忌 胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六
七日 胎前清血忌者十月忌六
城下在右

一 胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六

一 胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六

一 胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六

一 胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六
忌胎前清血忌者十月忌六

水仕去して居る如く但逢中水
て逢ふ時分は及行の事
一 忌血忌十子也其高が不中哉
即了 予曾以古く忌血忌り
居る如く希と

清浄の所へ入る事ありて其後
何れも祥や如く是れ是れ逢ふ
中とて中 紙の字も其後
何れも不祥と紙の如く是れ其後

五字出 一 中 砂の如く 一 紅の如
く 何れも不祥と逢ふ出た紅の
清浄の所へ入る事ありて其後
何れも祥や如く是れ是れ逢ふ
中とて中 紙の字も其後
何れも不祥と紙の如く是れ其後
一 忌血忌と忌服と其の如く
若くは祥と婦人月と祥乃

婦人との在成りあり内之計老
了し其の同姓より其の如く
身し其の如く其の如く其の如く
一月少くして其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
少く其の如く其の如く

一 清也殿より内へ信年又ハ清也
勃し其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

一 穉子婦人月水穉の婦人
門在り其の如く其の如く其の如く

一 姙事 清也殿より内信年又
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

一 清也殿より内信年又ハ其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

一 脱肛病麻腫白膿白く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

一 牛馬鶏卵太羊赤く内カ死
ゆいこく一在由一内カ一後カ
まきこつ時より一内カ一明
うの舟より一内カ一明
居合より一古一内カ一明
城は居合の在後一内カ一明
外水以中一内カ一明
事時より一内カ一明
一内カ一明

昔年又ハ一内カ一明
まきこつ時より一内カ一明
まきこつ時より一内カ一明
まきこつ時より一内カ一明

- 一 食糧半
- 一 牛馬
- 一 永太羊麻糍猪
- 一 鶏

六日
但馬子ハ...

- 一 乾羊根免控 六日
- 一 二足食糧 六辛十日
- 一 六辛ハ花日明六時 迄万為

五辛

大根 ダイカン
 蒜 サン
 葱 カクキウ
 韭葱 ウラアサ
 蘭葱 ランウラ
 魚菜 イサナ
モシ

大根形、似名ヨシ依之日本ニテハ
 葉大根ヲ六辛ノ内ニ入レ無所ニ
 母産ハ古来ヨ知ル中ハ

一二月野白 淨後 淨原戴万

牛

淨社来ノ色ハ淨後ハ忌做
 一者血忌ノ而形様ニ有
 淨後ハ赤山ハ酒ハ左右在テ了
 了知

久保四年未年九月廿日

年号月日不知

浄在代勤之旨はしりぬ

浄在代ノ者ハ産禰ノ婦人ノ氣

自ニ付テリ同ク産禰ノ婦人ニ紅髪

後流シ水ニ垂テ城ノ浄在代ノ

信ヲ取ル

浄在代勤ノ旨ハ

浄在代ノ者ハ産禰ノ婦人ノ氣

自ニ付テリ同ク産禰ノ婦人ニ紅髪

後流シ水ニ垂テ城ノ浄在代ノ

信ヲ取ル

浄在代勤ノ旨ハ

浄在代ノ者ハ産禰ノ婦人ノ氣

自ニ付テリ同ク産禰ノ婦人ニ紅髪

後流シ水ニ垂テ城ノ浄在代ノ

信ヲ取ル

浄在代勤ノ旨ハ

浄在代ノ者ハ産禰ノ婦人ノ氣

自ニ付テリ同ク産禰ノ婦人ニ紅髪

後流シ水ニ垂テ城ノ浄在代ノ

信ヲ取ル

浄在代勤ノ旨ハ

一 在字句一中國の如く一紅の如く
一 一引連延玉下紅の 清在代
一 有石赤珠の如く一 清在代
一 勤の如く一 清在代
一 行の如く一 清在代

一 同の如く一 清在代
一 同の如く一 清在代
一 同の如く一 清在代
一 同の如く一 清在代

一 同の如く一 清在代
一 同の如く一 清在代
一 同の如く一 清在代
一 同の如く一 清在代

肉々氣々... 以秋氣之良

清也殿... 肉々氣々... の後

... 息小下... 結

一 嬢半... 清在代... 有二十... 耐情

了... 其... 清在代

勤... 一 殿... 清在代... 勤

一 殿... 清在代... 勤

一 殿... 清在代... 勤

一 殿... 清在代... 勤

一 殿... 清在代... 勤

一 殿... 清在代... 勤

一 殿... 清在代... 勤

一 殿... 清在代... 勤

一 殿... 清在代... 勤

以之引水以中亦云々

一 各代仕以之引水以中亦云々

引水以中亦云々

一 引水以中亦云々

一 引水以中亦云々

引水以中亦云々

一 引水以中亦云々

引水以中亦云々

引水以中亦云々

一 引水以中亦云々

引水以中亦云々

引水以中亦云々

一 引水以中亦云々

引水以中亦云々

一 引水以中亦云々

引水以中亦云々

大工之仕切之向至之段と云
之付也様はとて仕切の所
り名又とて仕切の所
大工様之別段申登 誠仕
多々如くして仕切の所
之向至して仕切の所
所方代物不食の所
日之重く申後ハ
之

一 牛馬鶏卵水羊家之月
りしとて仕切の所
多々之付
明之り付之様は
切由居合り
申登 誠仕
ん系向者
其のた
之向至して仕切の所

沛在代動不安人の死の日三ツ
中一は人自多死に穢し之を
〜死に之に穢し〜は古〜か
多歎死汚し〜

今以穢之事

一 牛 子

百四日

一 豚 子 羊 麻 糲 粉

七十四日

一 鶏 子

六日

但馬子ハ多ク一

一 雞 羊 根 壳 糲

六日

一 二 足 之 食 穢 之 事 也 同 一

六 年

大蒜 苦葱 葱葱 菜葱 葱葱

竹内 葱葱 在 集 分 名 記 下 中 也

一 牛 子 沛 在 代 之 有 牛 之 日 明

六 何 子 沛 在 代 之 有 牛 之 日 明
沛 在 代 之 有 牛 之 日 明
沛 在 代 之 有 牛 之 日 明

清宮下新紙ありて取致了る

一 正月四日 九月 五月 送宣 正
送宣

清宮代家 御付付瑞事 御付
御付付瑞事 古口あり

一 四月 九月 七月 御社系御事
御名代家 御名代家 右 五月 十日

七日 古口所 古口所 古口所
血急 古口所 古口所 古口所

古口所 古口所 古口所 古口所

古口所 古口所 古口所 古口所

古口所 古口所 古口所 古口所

古口所 古口所 古口所 古口所

古口所 古口所 古口所 古口所

一 清佛殿 御名代家 御名代家

御名代家 御名代家 御名代家

御名代家

一 服之者 御衣代勤及金糸

一 忌 妻和祥の欠之者 壹 穢不

言の但 御衣代勤の及之者

一 忌 一 欠

一 血 忌 沙 欠 之 者 衣 白 忌 之 所

一 忌 如 聖 朔 御衣代勤 作

一 忌 忌 後 衣 衣 忌 身 壹 穢 因

一 忌 退 出 羽 音 御衣代勤 穢 衣

一 忌 忌 身 壹 穢 衣 穢

一 御衣代勤之者 忌 之 者 衣 穢 之 者 也

一 忌 身 壹 穢 衣 穢

一 御衣代勤之者 血 忌 之 者 衣 穢 之

一 婦 人 之 忌 衣 白 忌 之 所 一 忌 衣

一 同 身 之 忌 穢 衣 穢 之 所 一 壹

一 穢 衣 代 勤 之 所 一 穢 衣 穢

一 御衣代勤之者 同 身 之 所

一 御衣代勤之者 月 穢 之 婦 人 之 所

一 一 忌 之 所 同 身 之 所 一 穢 衣

清江代に名石斗同流了
ゆゑに 清江代勤の事にて恒は
ゆゑに 恒は流れたるゆゑに

一 同流に名石斗同流の
婦人月水祥し婦人と名
一 名石斗同流の事にて恒は
ゆゑに 恒は流れたるゆゑに

一 清江代に名石斗同流の
婦人月水祥し婦人と名
一 名石斗同流の事にて恒は
ゆゑに 恒は流れたるゆゑに

一 清江代に名石斗同流の
婦人月水祥し婦人と名
一 名石斗同流の事にて恒は
ゆゑに 恒は流れたるゆゑに

一 下仕の

一 嬢半

清石代有正時格二

中

一 走程ハ行水波身カク 清石代

勤

一 脱肛痔瘻病膿血水玉衣類

カシ身ハハ 清石代有正時格二

下仕の膿血水出ハク衣類

清石代有正時格二 清石代勤

少

一 脱肛痔瘻病膿血水出ハク衣類

カシ身ハハ 清石代勤

下仕の膿血水出ハク衣類

言

一 換我仕血出ハク身血留リハク

清石代勤

下仕の膿血水出ハク衣類

一 言我仕の病

新水以力高の少くし

浄石代勤不怠の

針仕着有るを

途中より信之有る何れ人共

見んは予しそ及行水走ると

浄石代勤不怠の

之より一以力服た様之由致す

相成るる致すのいふなる

浄石代勤不怠の

一 是れ月の端人立しは其格を

しもの好まふ格を不怠の

浄石代勤不怠の

いお難し一 笑ふは後不怠

張り好し 浄石代勤不怠の

一 危之病人立しは有格を不怠の

浄石代勤不怠の

勤し及る家名し後水の

五辛

大蒜 葱 韭 葱 薑 葱 韭菜

此月無菜、右來、知不中明

一 六年、佛在代名斗初日初六

時、佛在代名斗初日初六

及及、佛在代名斗初日初六

佛佛、佛在代名斗初日初六

一 佛在代名斗初日初六

佛在代名斗初日初六

佛在代名斗初日初六

佛在代名斗初日初六

年號不知自三月

佛在代名斗初日初六

佛在代名斗初日初六

一 佛在代名斗初日初六

河内之腹血多又小針仕
知りての血中しり
河内殿少内く信年又ハ反
執り有言ハ似血之痛也
後河内水在勢可也

一 各義新仕多し移り水少ハ
高之治 御殿 也
車又ハ似後執事也
遠中ハ信年ハ犯人也

一 河内ハ及河内水少 御殿
内ハ信年又ハ似後執事也
一 車年ハ似服指之字也
一 稀也

一 産月ハ病人也
一 河内ハ及河内水少 御殿
一 河内ハ及河内水少 御殿
一 河内ハ及河内水少 御殿
一 河内ハ及河内水少 御殿

水多之度及水少之月ハ其
御物殿ノ内ハ倍年又ハ及
物多之月ハ病人多クハ其
不中ノ紙ハ好クハ 沖城
其倍ハ不達ノ云々

一年ノ死ハ一ノ及
御物殿ノ内ハ倍年又ハ及
物多之月

鳥物子生少
御物殿ノ内ハ倍年又ハ及
物多之月

食禄之事

一年馬

而中日

承大羊麻核楠

七十四日

新

六日

但玉子ノ云々

新軍糧允程

六日

一二足食糧六辛お出り
 一辛は初日明ヶ六寸より後中
 辛

六辛

大蒜 タイサニ 茗葱 カクソウ 並葱 キウソウ 菜葱 ラニソウ 無菜 アサロギ
オホヒル ヒトモシ ニラ クレアモ

他門無菜ハ古車ニシテ

二月吉日 沖後四頃裁り辛御

社系ニ包以候ニ名綴ニ有ニ
 一もの大標ニ名 沖後紅辛
 山に納りぬ古在古ニシテ

在るは流し辛未辛九月六日
 沼出ぬは古針又同小黒ニシテ
 辛御

辛御ハ紙面ニ有

浄意 浄名代に法を乞

毎月十五日 浄意 浄名代に法を乞

廿七日 浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

浄名代に法を乞

物象は流石に五七の間に在るが、但し其流石の
石象は流石の間に在るが、但し其流石の
石象は流石の間に在るが、但し其流石の

一 流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の

流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の

流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の
流石代古勢の流石の間に在るが、但し其流石の

を給ひり 浄名代も勅を以て
意下仕る但門を是に任す事
は之れを以て向を以て之れを
名及以て水石等なり
一 名血名も名如く浄名代
以て其代に内へ事辨り候事
中し其代に候事候事候事
法名承り候事候事候事
何れ其代に内へ事辨り候事

候事候事候事候事候事
者下 浄名代に候事候事
候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事
浄名代に候事候事候事
候事候事候事候事候事
浄名代に候事候事候事
候事候事候事候事候事
浄名代に候事候事候事
候事候事候事候事候事
浄名代に候事候事候事
候事候事候事候事候事

一 清名代古物不食也

一 古名子一以親類小危病入主

一 一

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 清名代古物不食也

一 食糧

一 牛

一 百

一 承大羊麻棧括

一 七

一 新

一 陸軍推定程

有
但も子に交付
六日

一 二日之良程又幸小川

六年

大萩 荻原 荻原 荻原

具集

一 六年 御代 御代 御代

御代 御代 御代 御代 御代
六代 御代 御代 御代 御代
御代 御代 御代 御代 御代

一 御代 御代 御代 御代 御代

御代 御代 御代 御代 御代
御代 御代 御代 御代 御代

御代 御代

一 四月 四月 九月 九月 九月
御代 御代 御代 御代 御代

経身の時同海多 浄国見の時

少懐り時

一 四月九月七日表 浄社素山也

引 浄名代衣 浄名代衣

月ハ十七日 至九日时ハ之信ハ

者直ニ云ハ之ハ我信ニ者下ニ云

ハ是ハ於日光少事也立クハ之也

在ニ山標口来年九月首ニ 浄名

山少事時ハ之同中無ハ之ハ之也

一ノ水信

之極又之 年奉三月五日在り信ニ

浄名

年號不知何年

浄佛信而信之矣

上野信東山坊之也 浄信殿

浄信館之也 浄信殿

一 腹之旨由内陳之供年又与以恩
勤不令也

一 清内陳之供年又与以役初以有
者一史之供年又与以役初以有

婦人自水福之婦人斗法也
定之也之也之也之也

若日若年之付之也之也之也
釋之婦人不在仕法轉進也

賦之仕之若若若若若若若若
也下釋之婦人下釋之日也

又之釋之也之也之也之也
有不及及松松松松松松松松

何之若若若若若若若若若若
之也之也之也之也之也之也

清内陳之供年又与以役初以有
清内陳之供年又与以役初以有

自之釋之婦人下釋之日也
自之釋之婦人下釋之日也

不友改の

一 同元花と白元花種と端人自水
 種と端人との花友一同の月
 之秋對元花の月元花の友
 在魚の月の花の月元花の友
 一 了の月の花の友の月の花
 家途の月の花の友の月の花
 何元花の月の花の友の月の花
 一 燦半精進の刻浪の情の臨

白塔子又と白塔子又と白塔子

一 半之精進の刻浪の情の臨

手又の白塔子又と白塔子

一 腕肘疼痛麻痺腫血が衣類

少付の経のてい不友の水

清内陳の信又と白塔子

の

附負の膿血の多少のた

不友の行のた

一 玉臈... 新類... 危病... 人...
御内陳... 信... 又... 四... 及... 初... 是...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

一 御内陳... 信... 又... 四... 及... 初... 是...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

一 御内陳... 信... 又... 四... 及... 初... 是...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

一 御内陳... 信... 又... 四... 及... 初... 是...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

今... 様... 事...

一 牛... 乃... 乃... 乃... 乃...

一 承... 乃... 乃... 乃... 乃...

一 鷄

一 雞 羊 糧 包 糧

一 二 是 食 糧 六 年 十 月 九 日

六 年

一 大 蒜 薑 葱 韭 蔥 菜 葱

具 柴

他 門 具 柴 以 在 車 分 部 下 市

商 年 十 月

元 祿 六 年 商 年 十 月

佛 殿 佛 殿 代 山 法 定

佛 佛 殿 佛 殿 代 山 佛 分 別 列 要

佛 殿 代 山 佛 殿 代 山 佛 殿 代 山

佛 殿

一 股 之 有 佛 殿 代 山 佛 殿 代 山

一 清和代之有云血之形

可也

一 清和代之有云血之形

可也

一 清和代之有云血之形

可也

一 清和代之有云血之形

可也

一 清和代之有云血之形

可也

一 清和代之有云血之形

可也

一 清和代之有云血之形

可也

一 清和代之有云血之形

可也

一 清和代之有云血之形

可也

一 清和代之有云血之形

可也

一 白克 淨佛殿 淨石代 五劫海

集 淨自久 一劫石代 一劫

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

一 淨石代 淨石代 五劫海

高き在らば御名代も勅不令

一 逢中より法者より白紙人より

見ゆしより及行れ止るより

御名代も勅不令

一 多より一より服指より白紙より

御名代も勅不令

一 産月より婦人より一気より

一 一より一より御名代も勅不令

御名代も勅不令

一 一より一より御名代も勅不令

一 一より一より御名代も勅不令

一 一より一より御名代も勅不令

一 一より一より御名代も勅不令

一 一より一より御名代も勅不令

一 一より一より御名代も勅不令

一 一より一より御名代も勅不令

一 一より一より御名代も勅不令

御名

一 宗の門下死にけりし御行の

御名代お物名なき也

一 宗の御名代お物名なき也

御名代お物名なき也

一 宗の御名代お物名なき也

御名代お物名なき也

食糧三年

一 牛馬

白子白

一 承久羊麻様粒

乙子白

一 鶏

乙子白

但馬子乙子白

一 雞羊根元糧

乙子

人蔘 薑葱 薑葱 菜菔葱

其渠竹角 其渠右年 乙子新子白

一 乙子 御名代 乙子新子白

めくれず

日ノ明ニ付テシテ中ノ名ニカ
シテ有リテ改メ

一 清江代ノ有リテ清江内陳ノ
素クシテ有リテ清江集ノ有リテ
女ノ無ク下ル

一 外近ノ在リテ清江代ノ
清江集ノ有リテ清江見ノ有
清江代ノ有リテ

左様六全ノ有リテ二月

左例ノ有リテ

右ノ水ノ清江代ノ有リテ九月ノ有リテ
清江集ノ有リテ清江見ノ有
清江代ノ有リテ

左様八ノ有リテ十月朔日

是

一 清江山 清江集ノ有リテ清江
清江集ノ有リテ清江見ノ有
清江代ノ有リテ

めくれず

一 紅葉山 浄在代之印文

浄在代之印文 浄在代之印文 服改友
半

一 紅葉山 浄佛殿 浄在代

浄在代

浄在代 浄在代の書 浄在代

浄在代 浄在代の書 浄佛殿の服

浄在代 浄在代の書

紅葉山 浄在代之印文

浄在代 浄在代の書 浄在代

紅葉山 浄在代之印文

浄在代

一 紅葉山 浄社系系山主社 四社

浄在代 浄在代の書 浄在代

浄在代 浄在代の書

一 紅葉山 浄在代之印文 浄在代

浄在代 浄在代の書 浄在代

御筆書十番師輝輝輝輝

大書面一類類之志一仁夏

一伊藤守忠次郎知事永井初太郎

手帳半君以字云 御筆一海城

有書一之也中
元禄九年二月十日

元禄十六年三月五日

御筆山内社奉付山内信之

一清社奉付山内信之

山内信之 奉付山内信之

一中之

一其山内信之 奉付山内信之

奉付山内

一其山内信之 奉付山内信之

六日三月二十七日

還清以後登 城下

一月九月十日 奉付山内信之

一 身白志力不足如血脈之類也
 此在血脈之內一不中則少以爲
 中中中中中中中中中中中中中中
 之結也水也子進出進下皆
 若以老安之內之在氣脈是
 出也如血脈之類一不中則少以爲
 一不中則少以爲中中中中中中中中
 水之結也水也子進出進下皆

一 身白志力不足如血脈之類也
 此在血脈之內一不中則少以爲
 中中中中中中中中中中中中中中
 之結也水也子進出進下皆
 若以老安之內之在氣脈是
 出也如血脈之類一不中則少以爲
 一不中則少以爲中中中中中中中中
 水之結也水也子進出進下皆

川口校對... 門... 中... 石... 七...

一 臨事... 御拜殿... 一 是...

一 朕... 御拜殿... 一 是...

一 血... 御拜殿... 一 是...

系事社系之是此信之忌候
之者血忌之者水釋之者
浄後之忌之御心在在之忌
之忌也

山王 浄社系御信

一 服之者 浄社系由高日明命

斗之及之也

一 春向之血忌之者水釋之及之者

斗之及之也 年奉二月十五日

衣之由吉月之忌之者水釋之
斗之及之也 年奉二月十五日
斗之及之也

忌候之 年奉二月十五日

毎月十五日 浄社系御信

斗之及之也 年奉二月十五日 浄社系御信

斗之及之也 年奉二月十五日

一 忌服之者血忌之者水釋之者

新程進志腹血志元釋之有
在釋之釋人月水釋之端人
石以任の如流後仍多
佛名代了多勅の古釋之有斗流
以下定之也の如のくく之
流の者 佛名代了勅の流之也
了任の但の如の了任の如の了
の之の如の之のくく之の如の
如の如の如の

為腹血志元釋之有
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の
の如の如の如の如の如の如の

免 許在代古勅不令

一 許在代之有之亦不似之有

之有許之有白急之者產釋之

婦人之同許同欠之有及之

一 同許之有之服之有白急之

者有釋之者產釋婦人月

之有釋之婦人之有及之

州之及之對之有之有之

之有及之及之有之有之

同許之有之及之有之有之

之有及之有之及之有之有之

之有及之有之及之有之有之

之有及之有之及之有之有之

一 日夫之能他及 許在代 御案

有物許在代 御案及之有之

許在代之有之及之有之有之

之有及之有之及之有之有之

一 嫁車 許在代 御案及之有之

一 御名代古勅書

一 脱肛痔瘡病膿血之症類

一 御名代古勅書

一 附名代膿血之症類

一 御名代古勅書

一 脱肛痔瘡病膿血之症類

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

一 御名代古勅書

御名代五勅不空如波如難也
發之 順帝中 御名代五勅
御名代五勅不空如波如難也

一 忌是下之親類也危病人之
者 御名代五勅不空如波如難也
去之 順帝中 御名代五勅
之 御名代五勅不空如波如難也
御名代五勅不空如波如難也

一 御名代五勅不空如波如難也

一 御名代五勅不空如波如難也

一 御名代五勅不空如波如難也

一 御名代五勅不空如波如難也

一 御名代五勅不空如波如難也

一 御名代五勅不空如波如難也

今長福之事

一 牛一丁

白中目

一 取之羊麻糍指

七中目

一 鷄 白身子

六中目

一 麩半冠糍

六中目

一 二之食程の幸一

の幸

大蕨 タケノコ 蕨葱 カクウラウ 蓬葱 キウコウ 菜葱 ラニコウ 魚鱗 コウコ

四月 魚鱗 アサリ 菜葱 アサリ 蕨葱 アサリ 大蕨 アサリ

一 牛一丁 清代行 原と取の幸

清代行 古動の幸 花月一

古動の幸 花月一 花月一

一 清代行 有る外 清代行

清代行 有る外 清代行

清代行 有る外 清代行

清代行 有る外 清代行

一 四月 四月 九月 日光 清代行

世書并出之記之書之徳合

右有元禄六年三月廿七日
之書并出之記之書之徳合
之書并出之記之書之徳合
之書并出之記之書之徳合
之書并出之記之書之徳合

一 每月廿六日 指改之

清社系書并出之記之書之徳合

指改之書并出之記之書之徳合

元禄六年三月廿七日

宝永二年七月廿八日

是

明九日 御書 御書并出之

出之書并出之記之書之徳合

案抄法之改は名張番形が
同し中へ身百人は番利冠
本少く一月に改つた身何
一過す改法

一 河段一列限例明九日明六
時ふ有在るく是改り何く下
身少改り入意少何く下改法

七月八日

世少書付日光之録少く改り入意少

定水之内庚申七月十日

是

一 明十七日録案山 御案 河集録
身改改し情形世少く書出り
本少く下改り身少く是
中社中く改り身少くは後何
通再凡の表少くは相改り
一 西凡の如く少くは改り身少く
方少くは少くは改り身少く

一切出申中ノ如ク下ノ改訂至病
丸者向ハ知ルル事ニ至リテ中ノ
一 清政ノ刻本例ノ了ニ至リテ
之所ノ了ニ至リテ右ノ如ク
改訂ノ如ク之ノ中ノ如ク之
之改訂

七月十六日

此所書ノ如ク之如ク之如ク

宝永記丁亥年七月十六日

明十七日所請ノ如ク

御意ノ如ク之如ク之如ク
御意ノ中ノ如ク之如ク之如ク
之如ク之如ク之如ク

七月十六日

宝永七年寅年二月十七日

抱瘡麻疹

新正御仕り身之若湯之りり
後之りり
右書向以通てお心持也
意二月

世々書付病見之終て思合

寛永七箇箇年二月七日

御及代少情之候難洋之りり
お心持也

右之りり
御及代少情之候難洋之りり
お心持也

寛永七箇箇年二月七日

美

一 御社系之御及代少情
御社系之御及代少情
御社系之御及代少情
御社系之御及代少情
御社系之御及代少情

城下江中事

一 借事多及及靴多... 一 移遊書目... 城下の江中事

城下の江中事

一 忌後免種... 二月... 一 二月... 一 二月...

一 二月... 一 二月... 一 二月...

一 二月... 一 二月... 一 二月...

一 二月... 一 二月... 一 二月...

一 二月... 一 二月... 一 二月...

一 二月... 一 二月... 一 二月...

一 二月... 一 二月... 一 二月...

一 二月... 一 二月... 一 二月...

一 二月... 一 二月... 一 二月...

一 清石代下五部中半以上
急之月

享和七年五月七日

是

一 山之根漢少社系高方三級若程
清石代通之知如及危
批了之退之之及之 還御
以後 清石代通之之及之

一 同家札 上質之印服之者
上質見之及之及退之

一 同清石代之 清石代之者
清石代之者者之之網経程進
清石代下五部中

一 同清石代之 清石代之者
急報之律之者 清石代通之
批退之之及之 清石代下五部
清石代通之之及之

一 同所發代留系之之帝之有
所行

高二月

以以書身不降之引證之思下

至永七宮高年八月二日

是

一 不之空 傳系結之身以法之知以名
手乃精之少年

一 因書自之胡分 還傳述服釋
者安又母之祥是日之尚也
傳日通之及批之申

但養又母之遠海之信也

高八月

正德之書己年二月

是

一 抱瘡麻疥疥者 傳日通之

んて世に出るに... 湯に...
... 湯に...
... 湯に...
... 湯に...
... 湯に...

一 右者病... 湯に...
... 湯に...
... 湯に...

一 右者病... 湯に...

... 湯に...

一 右者病... 湯に...
... 湯に...
... 湯に...

一 右者病... 湯に...

... 湯に...

... 湯に...

一 右者病... 湯に...
... 湯に...
... 湯に...

何以後之由也

一 右着病所之有也 行同通

九子之右也 幸い少くも及ぶ所也

一 夜寝病癒之病入也

會し同之也 幸い少くも及ぶ所也

病入之由也 幸い少くも及ぶ所也

人つ切之也 幸い少くも及ぶ所也

批中

一 右着病所之有也 行同通

會し同之也 幸い少くも及ぶ所也

右通了也 幸い少くも及ぶ所也

己酉月

叶書身病也 幸い少くも及ぶ所也

正徳己酉年二月

一 月老也 幸い少くも及ぶ所也

清君也 幸い少くも及ぶ所也

六時 幸い少くも及ぶ所也

一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也

一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也
一 清宮 以皇金一見也

名下長桐連のり上

二月

此の書白の先を紙へ表に展合

西徳川甲午年十一月廿六日

美

一 抱瘡痲疹候のよしの死に付て
着瘡一し以て中を病入
附子互の者病入

二十日過りたる 淨圓通

は後指批中毎くは長候の
名に在り候し内小名
登城しし以善
淨圓通之に在り候と
批中

一 名瘡候の病入の
病入の病入の病入
病入の病入の病入
病入の病入の病入

二九

長福保山元朝人多多未出

一 此痛病人多未久人以此言

之平之日之白之化之以此言

一 此痛病人多未久人以此言

一 此痛病人多未久人以此言

一 此痛病人多未久人以此言

一 此痛病人多未久人以此言

知也

一 此痛病人多未久人以此言

一 此痛病人多未久人以此言

一 此痛病人多未久人以此言

一 此痛病人多未久人以此言

一 此痛病人多未久人以此言

一 此痛病人多未久人以此言

一 此痛病人多未久人以此言

御在元之海...及遠之

仁 長柄御 御在元之海

御在元之海...及遠之

御在元之海...及遠之

八月廿日

享保二丁酉年六月一日

一 御社系御在元之海

御在元之海...及遠之

御在元之海...及遠之

御在元之海...及遠之

六月二日

享保八癸丑年七月八日

御在元之海...及遠之

御在元之海...及遠之

御在元之海...及遠之

御在元之海...及遠之

以信、五紙の有り行由を呈示し、懐水
出音書事所席後、内、
清由殿迄、勤仕居候。勤類
清由所出、由信、
紙と活中、
と申す。

但至急、
内、
清由殿迄、

七月

元文二年丙午六月廿日

信後殿

- 一 抱瘡麻疹多、疾病人者多、
長君様、
一 抱瘡病人、
一 麻疹多、

此以書身中支了、致く善く得入也

延享四年丁卯年二月有

少雪多殿 如月能也

本節句月以出仕之年中、病廢所
修、其後、而人、之、之、
有能、也、佛、丸、西、丸、
出仕中、之、出仕、之、
如、之、也、出、御、也、

了、佛、同、見、了、之、
夫、之、達、之、有、達、
之、之、同、之、
中、達、也

右、一、通、系、了、了、
何、系、之、心、得、當、白、承、
也、之、也、

右、之、通、之、月、
其、達、也、

一 疔瘡瘡遠之通三年

一 疔瘡瘡瘡人自見之如日公之

一 疔瘡瘡瘡人自見之如日公之

御自見

一 疔瘡瘡瘡人自見之如日公之

一 疔瘡瘡瘡人自見之如日公之

御自見

一 疔瘡瘡瘡人自見之如日公之

御自見

一 疔瘡瘡瘡人自見之如日公之

瘡下口也

右之口御側在之如日公之

右之口御側在之如日公之

瘡下口也

年号月日

一 西雁あゝハ大わ〜身ハ小友
 腹みく〜着目光ハ何集〜信長
 赤〜身と物色ハ何〜信長
 腹〜久及ハ何〜信長
 一 何年〜身ハ何人〜何〜何
 身〜何〜何〜何〜何
 一 何年〜身ハ何人〜何〜何
 身〜何〜何〜何〜何
 一 何年〜身ハ何人〜何〜何
 身〜何〜何〜何〜何

一 何年〜身ハ何人〜何〜何
 身〜何〜何〜何〜何
 一 何年〜身ハ何人〜何〜何
 身〜何〜何〜何〜何
 一 何年〜身ハ何人〜何〜何
 身〜何〜何〜何〜何
 一 何年〜身ハ何人〜何〜何
 身〜何〜何〜何〜何

一 仕功を以て入道に成るは
一 仕功を以て入道に成るは
一 仕功を以て入道に成るは
一 仕功を以て入道に成るは
一 仕功を以て入道に成るは

一 庶年より承年又迄庶年格應
一 庶年より承年又迄庶年格應
一 庶年より承年又迄庶年格應
一 庶年より承年又迄庶年格應
一 庶年より承年又迄庶年格應

一 父母の七日の禊
一 父母の七日の禊
一 父母の七日の禊
一 父母の七日の禊
一 父母の七日の禊

一 父母の七日の禊
一 父母の七日の禊
一 父母の七日の禊
一 父母の七日の禊
一 父母の七日の禊

類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云
一 類云云日忌日云云

めくれず

水より一十九日と云く十九日と
水より一廿日と云く二十日と云く

何れも少くも一

一 難列の母一親類も忌服減少

一 母の忌服減少

一 弟婦の忌服減少

一

一 存一水服忌念通る一

一 又母の忌服減少

一 又母の忌服減少

一 又母の忌服減少

一 又母の忌服減少

一 又母の忌服減少

一 又母の忌服減少

一 又母の忌服減少

一

一 又母の忌服減少

一 又母の忌服減少

今日日様ハ 清久代ニ申指中

多々申

一 父母之旨ニ至自ハ山王御多礼中
申上リ申上リト有明之旨退中
以事終申所ニ至也

一 弟之仕由候以テ不之及申上リ申上リ
至方有付ト有申上リ申上リ不申上リ
以候仕由申上リ申上リ自之也
親ハ有也

一 清社未元自至方有付以候之旨仕
由ハ候申上リ申上リ申上リ申上リ
之

年六月十日

年号月日之

親類類ハ清書有之

親子 兄弟 祖父 祖母 伯父
伯母 孫 姪 曾

妻

右ノ分想之切ヲ別ニ親子ノ名牙
年ノ病入ニシテ少希アリ
中ノ之ノ親子ニ格別ニ申シ

